

## 質 擬 欄

(二三) 天文学或は天文学者に就ての奇談逸話等のある書(YH)

【答】別にそんな本はない様です。名前は例へば Romance of Modern Astronomy.

とか Chats on astronomy など付いて居ても内容は單に天文学を述べた者に過ぎません。「天文夜話」には實は御質問のやうなことを書くつもりでしたが、もう其のうちに中止する考です。云ふのは内容は眞面話でも、さうも誤解されて居るらしいのと且目下の天界のペーシを浪費して居るかも知れませんので。(K)

(二四) 天文学の歴史に關する参考書、邦書及び洋書(YH)

【答】各天文学者の傳記は勿論略しますが最近の日々の進歩は、天文の雜誌によるより仕方ありません。それから詳しい古いことを調へるには Bailly, Delambre, Madler, Wronski 等の星學史がありますが、一寸手に入れ難いでせう。普通な者を挙げます(邦書はありませぬ)

1. G. Forbes : History of Astronomy 1909
  2. A. Berry : Short History of Astronomy. 1898
  3. W. Bryant : A History of Astronomy. 1907
  4. Miss Clarke : History of Astronomy during the Nineteenth Century. 1902
  5. R. Grant : History of Physical Astronomy. 1882
  6. N. Lockyer : The Dawn of Astronomy. 1864
  7. W. Brenand : Hindu Astronomy. 1896
  8. J. L. E. Dreyer : History of the Planetary Systems from Charles to Kepler. 1905
  9. E. Lebon : Histoire abrégée d'Astronomie 1899.
- (1) は一圓位の小冊子ですが要領を得て宜しいから、最初に掲げたのです。天文をやつて居る者は、この程度の智識は常識として知つて居るべきだと思います。
- (2) は三圓位で、一九〇〇年以前の歴史は可なり詳しく出してあります。私は(3)よりも好きです。但古代(ギリシヤ以前及び東洋の分)殆ど略してあります。(3)はニュートン以

前は詳しくからず。(4)は有名ですが主として、ハーシェル以後の歴史です。しかし詳しい書物は讀んですぐ忘れてしまふ者ですからあまり或目的以外には役に立たぬかも知れません(5)等は古くさい者ですが、西洋の古本屋の目錄に珍重がられる点で掲げました。しかし有名な本です。

(6)は古代エジプトで太陽や星が如何に崇拜せられたか、十二宮たごか、シリウス星のこゝ等を説いた者で、天文学の起原時代の様子を知れます。(7)は東洋の古代天文の紹介です。(8)は左程の特色もありません。(9)は簡單で近代に詳しい様です。近頃フランスでは(9)よりも要領を得た者を出版して居る様ですが、忘れました。

天文書を一通り精讀して居られる方には、大體重要事件の事代は、それで御存じでせうから、(1)(2)又は(3)をお讀みになるを、既知の事實が年代順に配列せられ整理せられて頭にはいります。のみならず星學史と云つても大體夫自身だけで分るやうに書いてありますから一方から云へば、天文の教科書で、唯主として年代順發展順に記された者とも云へます。(K)